

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

「学ぶ力」を取り戻すための これからの学校教育への提言

『学力喪失』

— 認知科学による回復への道筋 —

今井むつみ（環境情報学部教授）著
岩波新書 / 1276円（2024年9月）



乳幼児は驚異的な「学ぶ力」で言語を習得するが、学校に通う年代になると多くの子どもが学ぶ意欲を失ってしまおう。なぜもともと持っていた「学ぶ力」を学校で発揮できないのか？ 本書はこうした問題意識を出発点にこれからの学校教育のあり方を認知科学の視点から提案する。算数・数学学習の現状から「つまづき」の原因解明、そして学ぶ力と意欲回復への道筋までを3部構成で展開。従来のテストや学力に対する大人の誤認識と子どもたちのつまづきの原因を指摘しつつ、「学ぶ力」を引き出すための考え方と実践例を紹介。学校教育の意義をあらためて読者に問いかける。

教職員執筆の新刊

●志村真幸（文学部准教授）著

『在野と独学の近代—ダーウイン、マルクスから南方熊楠、牧野富太郎まで』
中公新書 / 1056円（2024年9月）

●鈴木二正（幼稚舎教諭）著

『90日で基礎が身につく！ 毎日3分ちよこつと漢字ドリル』
主婦と生活社 / 990円（2024年10月）

●岩波敦子（理工学部教授）著

『変革する12世紀—テキスト／ことばから見た中世ヨーロッパ』
知泉書館 / 6820円（2024年10月）

●駒村圭吾（法学部教授）編

『プラットフォームとデモクラシー—The Future of Another Monster Demos』
慶應義塾大学出版会 / 2970円（2024年10月）

●牛場暁夫（名誉教授）著

『受容から創造へ—文学・芸術に導かれて』
作品社 / 2640円（2024年10月）

●錦田愛子（法学部教授）著

『パレスチナ／イスラエルを読み解く』
えにし書房 / 2200円（2025年1月）

慶應義塾この一冊

『小幡篤次郎著作集 第五巻』

小幡篤次郎著
小幡篤次郎著作集編集委員会編
慶應義塾大学出版会 / 7480円
（2024年11月）



同じ中津出身である福澤諭吉の右腕として、草創期の慶應義塾の礎を築いた小幡篤次郎（1842～1905）。彼の著作集の刊行が始まったのは2022年3月。約2年半を経た2024年11月に最終巻となる第五巻が刊行された。第五巻には「英式艦砲全書 一」～「船用汽機新書 巻之一」のほか「書簡集」を収録。慶應義塾と近代日本の発展に尽力した知られざる偉人・小幡篤次郎の業績を多角的に伝える貴重な著作集がついに完成した。なお、索引や年譜などを収録した「別巻」は2024年度末に刊行予定。